

Cs MAIL

シーズ・メール

Vol.79 株主通信 2015年度 第2四半期 事業のご報告

証券コード：5021

平成27年4月1日～平成27年9月30日

FEATURE
Cosmo
Energy
Holdings
Co., Ltd.
THREE
KEYWORDS

特集 **誕生!!**

コスモエネルギーホールディングス
3つの**KEYWORDS**



ココロも満タンに



 コスモ石油

エネルギーの安定供給を通じ、社会の多様なニーズに応えます

グローバルな 垂直型一貫総合エネルギー企業へ



石油開発

長年の信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦・アブダビ首長国、カタール国において原油の自主開発・生産に取り組んでいます。



石油精製・販売

産油国から大型タンカーで輸入した原油は、製油所でガソリン、灯油、軽油、重油などに生まれ変わり、全国のサービスステーションや工場などの需要家に販売しています。



石油化学

ポリエステル繊維やペットボトルの原料であるパラキシレン、ミックスキシレン及びプラスチックや合成ゴムの原料であるエチレンやプロピレン等の製造に携わっています。



再生可能 エネルギー

エネルギー供給の多角化に向け、再生可能エネルギーに注力しています。国内シェアの約6%を占めるグループ会社のエコ・パワーでは、風力発電事業の拡大を図っています。

売上高

3兆358億円

経常利益

-496億円

在庫評価除き

665億円

在庫評価とは

民間の石油会社では、法律に従って石油を備蓄しておく義務があります。2014年度は、原油価格が大きく下落したため、備蓄してある在庫の評価が大きく下がりました。

原油埋蔵量

167.6百万バレル

生産エリア

アラブ首長国連邦・アブダビ首長国、カタール国

※確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計(2014年12月31日時点)

原油処理量

日量45.2万バレル

サービスステーション

コスモエネルギーグループ
給油所数

3,133箇所

国内給油所数
33,510箇所

コスモスマートビークル累計契約台数

約22,000台

※個人向けカーリース(2015年9月末時点)

風力発電所

22地域 145基
国内4位

千葉製油所

四日市製油所
堺製油所



持株会社体制に移行し、 総合エネルギー企業へと さらに進化してまいります。

代表取締役社長 森川 桂造

持株会社体制へ移行し、 第5次連結中期経営計画の見直しを行いました

2015年10月1日より持株会社体制へ移行し、コスモエネルギーホールディングス株式会社として新たなスタートを切りました。私は社長就任時より、安定配当、最適な経営資源の配分、アライアンスの強化を方針として掲げておりましたが、このたびの持株会社化は、これらの方針を具現化する手段であるとともに、第5次連結中期経営計画の最終目標である「グローバルな垂直型一貫総合エネルギー企業」の実現に向けた強力なエンジンになると考えています。

持株会社体制のもと、最適な経営資源配分を担う持株会社、事業競争力強化・収益最大化を担う事業会社がうまく機能することで、これまでにない価値を生み出すことができると確信しています。現在、経営資源が集中している石油精製事業を中心に徹底的な合理化・効率化を推進するこ

とで、石油開発から石油精製、石油販売・リテール、石油化学といった、上流から下流のサプライチェーンを垂直に一貫して担うとともに、次世代のエネルギーである再生可能エネルギーなども総合的に取り扱う企業へと進化していきます。

加えて、日本版コーポレートガバナンス・コードによる「攻め」のガバナンスを実行し、持続的成長と中長期的な企業価値向上を目指します。

なお、当社は2015年11月に「第5次連結中期経営計画（2013年度～2017年度）」の見直しを行いました。

当初の計画と比較しますと、原油価格や為替の変動により、石油開発事業は減益となるものの、石油事業は精製コストの減少や、千葉製油所での東燃ゼネラル石油との京葉精製共同事業合同会社設立や四日市製油所での昭和四日市石油との事業提携などの追加施策等により増益となり、2017年度の連結経常利益は当初計画を維持する結果となりました。

当第2四半期の業績について

原油価格は、期初1バレル53ドル台であったドバイ原油が、期末にかけて43ドル台に下落したことにより、売上高は1兆1,705億円（前年同期比3,820億円の減収）となりました。利益面では、原油価格下落に伴う石油開発事業の収益低下を主要因に、営業損失は34億円（前年同期は営業利益127億円）、経常損失は75億円（前年同期は経常利益49億円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は175億円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失153億円）となりました。なお、原油・石油製品等の在庫評価の影響を除いた連結経常利益は、50億円（前年同期比99億円の減益）となりました。

連結財政状態については、総資産は1兆3,812億円となり、前連結会計年度末比474億円減少しております。また、純資産は1,904億円となり、自己資本比率は10.8%となりました。

通期の見通しについて

2016年3月期通期の見通しにつきましては、上期の実績を織り込み、2015年11月5日に見直しを実施しました。売上高は2兆4,650億円（前年比5,708億円の減収）、営業利益は370億円（前年は営業損失384億円）、経常利益は260億円（前年は経常損失496億円）、親会社株主に帰属する当期純利益は当初計画を維持し、210億円（前年は親会社株主に帰属する当期純損失777億円）と予想しています。

株主還元について

当社は、株主の皆様への利益還元を行うことを経営の重点課題とし、企業体質強化や将来の事業展開、業績、資金バランスなどを勘案の上、安定的な配当を実施することを基本方針としています。ただし、当社の収益状況は、原油価格や為替の変動、石油製品需要、マージンなど当社単独ではコントロールできない市況要因により、大きく影響を受けます。その結果、前期については、原油価格の大幅な下落により大きな在庫評価損を計上したため、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

しかし、このたびの持株会社体制への移行により、各事業会社が収益を上げることによる各事業会社からの配当、及び分担金などで、今後は持株会社が安定的な収益を上げられ、株主の皆様へ安定配当ができる体制となります。当期の配当につきましては、前述の持株会社体制への移行と、当社グループの収益力、財務体質や投資戦略などを総合的に勘案し、持株会社の株式1株につき40円^(注)の期末配当を予定しています。

今後も、グローバル市場を背景とした新たな競争時代を勝ち抜くため、新体制での成果を早期に実現させるべく、当社グループ一丸となって取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(注) 2015年10月1日を効力発生日とする単独株式移転方式による持株会社への移行を実施。旧コスモ石油の株式1株に対してコスモエネルギーホールディングス株式0.1株を割り当てた場合における持株会社の1株あたり配当。

FEATURE
Cosmo
Energy
Holdings
Co., Ltd.
THREE
KEY
WORDS

誕生 !!

コスモエネルギーホールディングス

3つのKEYWORDS

2015年10月、コスモ石油グループは
新たに「コスモエネルギーホールディングス」を持株会社とし、
事業会社を傘下とする体制として生まれ変わりました。
ここでは、持株会社へ移行した背景や意図を分かり易く解説します。

KEYWORD 1

安定配当



当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重点課題と位置づけています。持株会社体制への転換を機に事業会社の収益力を高め、成長事業への投資や財務体質の改善も考慮しながら、安定的な配当をめざしていきます。

KEYWORD 2

経営資源の最適配分



人口減少や省エネに伴う国内石油製品需要の減少、再生可能エネルギー導入拡大など、経営環境は大きく変化しています。そのような中、当社は経営資源が集中する石油精製事業から成長が見込める事業へ経営資源を適切に配賦することで、グループ全体の成長を加速します。その実現の手段として、全体のバランスをとる役割を担う持株会社が新しく発足しました。

 **コスモエネルギーホールディングス株式会社**

石油開発・生産

 **コスモエネルギー開発株式会社**

原油生産量(開発3社)^(注1)

約4万バレル/日
精製能力比:約9%

原油開発・生産エリア

アラブ首長国連邦・アブダビ首長国
カタール国

主な関係会社

アブダビ石油株式会社
カタール石油開発株式会社
合同石油開発株式会社

石油精製・石油化学

 **コスモ石油株式会社**

主な原油輸入国

アラブ首長国連邦・アブダビ首長国
サウジアラビア王国
カタール国

石油精製能力^(注2)

45.2万バレル/日
国内シェア 約11.5%

パラキシレン生産能力^(注2)

118万トン/年

主な関係会社

コスモ石油LPリカンツ株式会社
コスモ松山石油株式会社
CMアロマ株式会社
Hyundai Cosmo
Petrochemical Co., Ltd.
京葉精製共同事業合同会社

石油製品販売、リテール事業等

 **コスモ石油マーケティング株式会社**

国内販売シェア^(注3)

約12%
(ガソリン、軽油、灯油、A重油)

国内SS数^(注3)

コスモマークSS数
3,133箇所

個人向けカーリース事業^(注2)

累計 22,029台

主な関係会社

コスモ石油販売株式会社
総合エネルギー株式会社

主な関係会社

エコパワー株式会社
ジクシス株式会社
丸善石油化学株式会社
コスモALA株式会社
株式会社コスモトレードアンドサービス

(注1) 2015年1月~6月実績

(注2) 2015年9月末時点

(注3) 2015年3月末時点

KEYWORD 3
戦略的な事業提携推進



事業ごとの組織体制となったことで意思決定のスピードが早くなり、めまぐるしい経営環境の変化に適應できる体制となりました。事業ごと、地域ごとに他社との戦略的な事業提携や共同事業を積極的に推進し、新たな価値を生み出していきます。

PLUS

攻めのガバナンス



当社は、複数の独立社外取締役で構成される監査等委員会を持つ監査等委員会設置会社です。社外の視点を積極的に経営に取り入れることで、企業価値向上を実現します。



石油開発事業

Oil Exploration and Production Business

主なグループ会社

- コスモエネルギー開発
- コスモアブダビエネルギー開発
- アブダビ石油
- カタール石油開発
- 合同石油開発(持分法適用会社) 他

売上高
(2015年度第2四半期)

282億円

前年同期比 **-111億円**

当第2四半期の概況

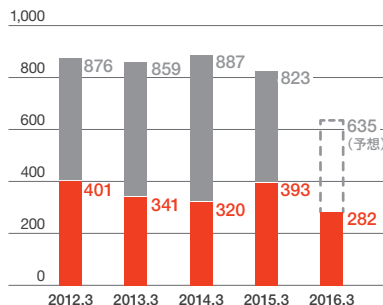
原油価格の下落により、売上高は282億円(前年同期比111億円の減収)、セグメント利益は108億円(同108億円の減益)となりました。

今後に向けての戦略

アラブ首長国連邦・アブダビ首長国、カタール国の海上油田で原油開発を行っています。アブダビ石油では、2012年から30年間の利権更新を実施した既存3油田における生産継続に加え、新たに獲得したハイル油田での生産開始に向け、開発を進めています。ハイル油田は、既に原油埋蔵が確認されているため、リスクの低い油田です。また、事業拡大に向けた施策として、アブダビ国営石油会社、2014年に戦略的包括提携を締結したスペイン総合石油会社大手のセプサ社、当社グループの3社でワークショップを定期的に開催し、共同でさらなる新鉱区獲得や事業拡大に注力していきます。

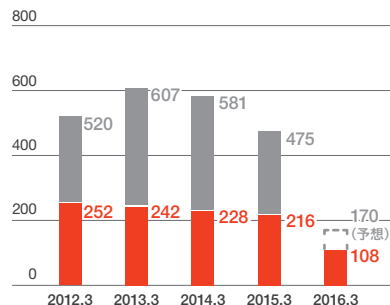
売上高

(単位:億円)



セグメント利益

(単位:億円)





TOPICS

新鉱区「ヘイル油田」

2016年度中の生産開始を目指し、 順調に開発が進んでいます。

ヘイル油田は、順調に開発が進み、現在は2016年度中の生産開始をめざし、リグ（坑井掘削装置）を移動するための水路浚渫しゅんせつや人工島の建設を進めています。

ヘイル油田はピーク時に既存3油田（ムバラス油田、ウム・アル・アンバー油田、ニーワット・アル・ギャラン油田）と同程度の生産量が見込まれております。

当社グループは、産油国との信頼関係を基盤にさらに開発事業を進め、エネルギーの安定供給に寄与していきます。



アラビア湾沿岸



アブダビ石油 鉱区位置図

ヘイル油田開発スケジュール



(注) 3次元地震探査とは、人工的に地震波を発生し、地下の地層境界で反射した地震波を受振することでデータを取得し、そのデータを用いて地下構造を推定する調査のことです。



石油事業

Petroleum Business

主なグループ会社

コスモ石油
 コスモ石油マーケティング
 コスモ石油販売
 コスモ石油ブリカッツ
 総合エネルギー
 ジグリス(持分法適用会社) 他

売上高
 (2015年度第2四半期)

1兆1,649億円

前年同期比

-3,779億円

当第2四半期の概況

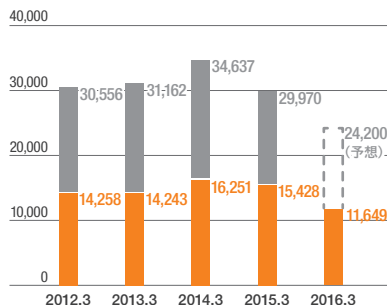
原油価格の下落により、売上高は1兆1,649億円(前年同期比3,779億円の減収)、セグメント損失は、185億円(前年同期はセグメント損失130億円)となりました。なお、在庫評価の影響を除いたセグメント損失は、57億円(同27億円の減益)となりました。

今後に向けての戦略

3製油所体制での安全・安定操業をベースとし、主に千葉エリア、四日市エリアで推進している他社とのアライアンスを通じて、製油所の競争力強化を目指しています。また、国内石油製品需要が減少する中、燃料油販売のみに依存した従来のビジネスモデルから、「カーライフ価値提供型」へとビジネスモデルの転換を図るべく、個人向けカーリース事業の取り組みを強化しています。当社グループのサービスステーションにご来店いただくお客様にマイカーリースなど新しいカーライフのご提案をしていくことで、各サービスステーションの収益力向上を目指しています。

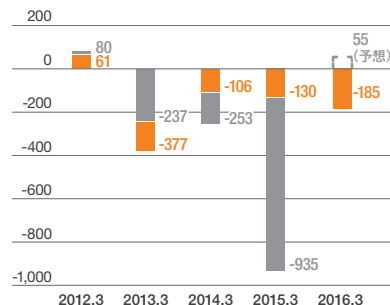
売上高

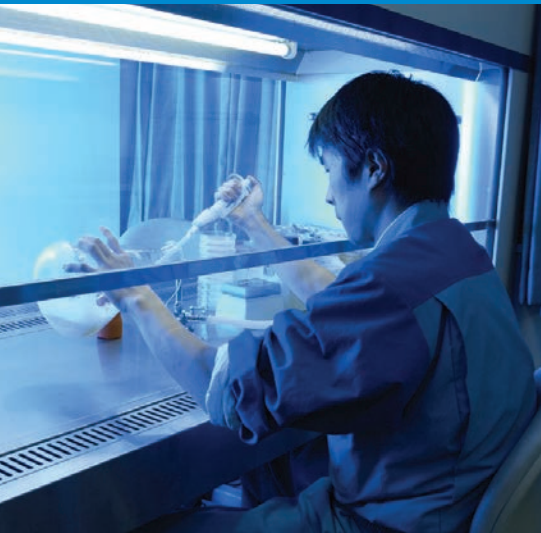
(単位:億円)



セグメント利益

(単位:億円)





石油化学事業

Petrochemical Business

主なグループ会社

コスモ松山石油

CMアロマ

丸善石油化学(持分法適用会社)

Hyundai Cosmo Petrochemical(持分法適用会社)

売上高
(2015年度第2四半期)

254億円

前年同期比 **-3億円**

当第2四半期の概況

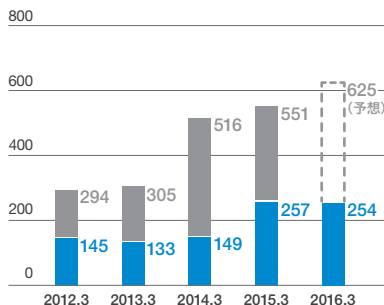
売上高は254億円(前年同期比3億円の減収)となりました。好調なエチレン市況などにより、セグメント利益は6億円(前年同期はセグメント損失28億円)となりました。なお、在庫評価の影響を除いたセグメント利益は、3億円(同31億円の増益)となりました。

今後に向けての戦略

当社グループは、ガソリンの国内需要減少を見据え、余剰が懸念されるガソリン留分を、付加価値の高い石油化学製品へ転換する取り組みを進めています。現在は、アジア地域で需要が高まるポリエステル繊維やペットボトルの原料に使用されるパラキシレン及び、その原料となるミックスキシレンの生産に注力し、長期的な視野での成長を見込んでいます。また、エチレンについては、製品輸出の大型ロット化を進めるなど輸出競争力の強化を図っています。

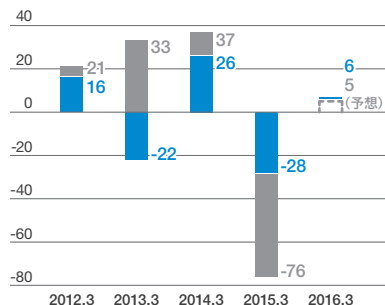
売上高

(単位:億円)



セグメント利益

(単位:億円)





その他事業

Other Business

主なグループ会社

コスモエンジニアリング
コスモトレードアンドサービス
エコ・パワー 他

売上高
(2015年度第2四半期)

311億円

前年同期比 **-9億円**

当第2四半期の概況

売上高は311億円（前年同期比9億円の減収）となりました。エコ・パワーは新規サイトの稼働開始で増益となったものの、セグメント利益は6億円（同3億円の減益）となりました。

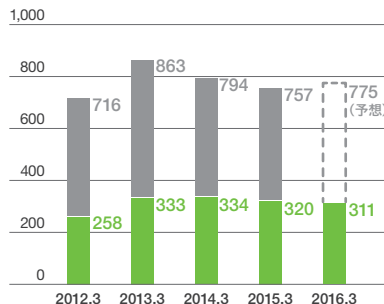
今後に向けての戦略

当社グループは、エネルギー供給の多角化の推進に向け、再生可能エネルギーにも注力しています。国内シェアの約6%を占めるエコ・パワーでは、2014年度に稼働を開始した広川・会津の風力発電所に加え、2017年度までにさらに約5万kwの新規の風力発電所を増設する予定です。その他、メガソーラー事業につきましては、他社と共同で設立したCSDソーラー^(注)合同会社が全国8拠点で太陽光発電所の営業運転開始に向けて着実に準備を進め、7拠点で営業運転を開始しました。

(注) 昭和シェル石油と日本政策投資銀行との共同設立

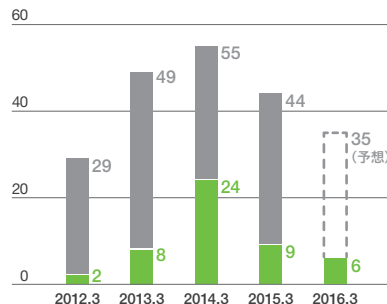
売上高

(単位: 億円)



セグメント利益

(単位: 億円)



コスモ石油エコカード基金 「C.W.ニコル・アフアの森」 体験エコツアーを実施



当社グループでは、エコカード会員の皆様とともに、コスモ石油エコカード基金を2002年4月にスタートし、国内外で地球環境貢献活動を展開しています。

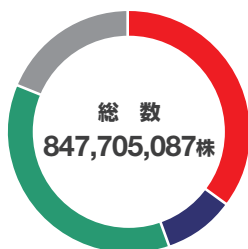
2015年8月22日に日頃よりコスモ石油エコカード基金へご支援いただいているエコカード会員の皆さまに、当基金のプロジェクトのひとつである一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団が行う「人と森をつなぐプロジェクト」^(注)を体験していただくツアーを開催。2回目となる今回のツアーでは、昨年に引き続き、C.W.ニコル・アフアの森で自然の大切さや楽しさ、森作りについて学んでいただくという内容で実施しました。

(注) 本プロジェクトは、盲学校や養護学校の子どもたちや、東日本大震災で被災した子どもたちが自然と触れ合うことで、自分らしく生きていくためのきっかけをつくることを目的とし、アフアの森や被災地で活動をしています。



当社グループとJFN(全国FM放送協議会)38局がパートナーシップを組んで「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ～」をテーマに、地球環境の保護と保全のメッセージを呼び掛けていく活動を展開しています。その中の活動に全国各地で工夫を凝らしたイベントをしながら、楽しく清掃活動を行う「クリーン・キャンペーン」があります。2001年から始まった「クリーン・キャンペーン」は、延べ592箇所で開催され22人万以上の方が参加し、回収したごみの量は630万リットルを超えました。

当社グループでは、石油が人類に恩恵をもたらしてきた一方で石油の大量消費が地球環境に負荷を強いてきた事実を忘れずに、「地球と人と社会との調和」をめざして環境活動に取り組んでいます。

発行済株式^(注)

■ 金融機関・証券会社 (信託口を含む)	296,715 (35.0%)
■ 国内法人 (自己株式を含む)	81,379 (9.6%)
■ 外国人	311,427 (36.7%)
■ 個人・その他	158,182 (18.7%)

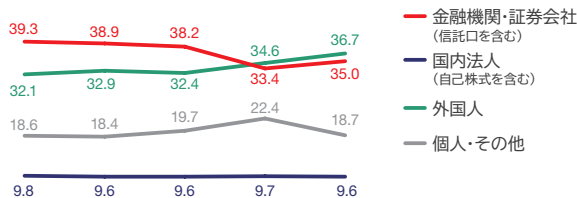
(単位: 千株、千株未満切捨)

株主数^(注)

■ 金融機関・証券会社 (信託口を含む)	82名 (0.2%)
■ 国内法人 (自己株式を含む)	454名 (1.3%)
■ 外国人	276名 (0.8%)
■ 個人・その他	33,266名 (97.6%)

発行済株式数の所有者別推移^(注)

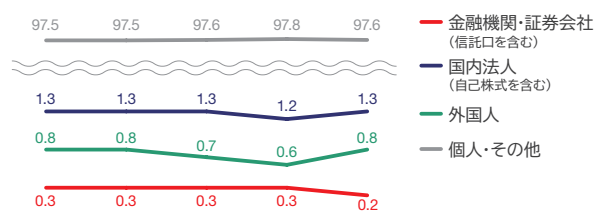
(単位: %)



2011年度末 2012 2013 2014 2015.9末

株主数比率の推移^(注)

(単位: %)



2011年度末 2012 2013 2014 2015.9末

大株主^(注)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
Infinity Alliance Limited	176,000	20.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	54,272	6.40
株式会社みずほ銀行	31,531	3.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,750	2.32
関西電力株式会社	18,600	2.19
三井住友海上火災保険株式会社	17,678	2.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	17,067	2.01
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	15,803	1.86
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	15,792	1.86
コスモ石油取引先持株会	15,301	1.80

※小数点第3位を切り捨て ※持株比率は自己株式を控除して計算しております

会社概要

商号	コスモエネルギーホールディングス株式会社
証券コード	5021
本社所在地	〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号 電話 (03) 3798-7545
発足年月日	2015年(平成27年)10月1日
資本金	400億円
事業内容	総合石油事業等を行う傘下グループ会社の経営管理及びそれに付随する業務
沿革	1986年4月1日大協石油株式会社、丸善石油株式会社及び両社の精製子会社である旧コスモ石油株式会社の3社が合併し、コスモ石油株式会社が発足。 1989年10月1日アジア石油株式会社を合併。 2015年10月1日コスモエネルギーホールディングス株式会社が発足。
主要取引銀行	(株)みずほ銀行 (株)三菱東京UFJ銀行 (株)三井住友銀行

コスモエネルギーグループの主要データ^(注)

特約店数	230店
支店	札幌、仙台、東京、関東南、名古屋、大阪、広島、高松、福岡
製油所	千葉、四日市、堺 ※坂出製油所は2014年4月から坂出物流基地に移行しました。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 支払株主確定日	3月31日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL http://ceh.cosmo-oil.co.jp/ir/notice/index.html
上場取引所	東証一部

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

見通しに関する 注意事項

この「事業のご報告」に含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化などにより変化する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

サービスステーション

コスモSSのご紹介

コスモ石油販売株式会社
東中部カンパニーセルフステーション竜宮インター



今回ご紹介するサービスステーションは、車社会として知られる愛知県名古屋市に位置する「セルフステーション竜宮インター」。同店は、順調に成長を遂げている当社グループのカーリース事業「コスモスマートビークル」において、2014年度のビークルリース契約台数でナンバーワンになりました。また、自動車保険獲得数においては、2011年度から4年連続で全国一位を獲得した名店です。所長の深谷さんは、「私たちは、地域密着を大切にしています。常連のお客様の自動車の好みや車検のサイクルをきちんと把握して、お客様にとって最適な提案を心がける。そんな“当たり前”のことをコツコツ続けたからこそ、ナンバーワンを獲得できたのだと思います。」と分析。プロフェッショナルとして、知識を磨き、お客様への最適なお提案で“ココロも満タんに”するサービスステーションを目指す「セルフステーション竜宮インター」、お近くにお寄りの際は、是非、お立ち寄りください。



LOCATION



コスモ石油販売(株)
東中部カンパニーセルフステーション竜宮インター
愛知県名古屋市南区南陽通五丁目1番1



所長 深谷友利さん

C's MAIL シーズ・メール
Vol.79

誌名『C's MAIL (シーズ・メール)』には、「C (コスモ) の手紙」の意味を込めました。
株主の皆様へ、心の通った情報を提供したいという当社の願いを、この名前に託しています。

発行/コスモエネルギーホールディングス株式会社
グループ経営企画ユニット/コーポレートコミュニケーション部 IR室
〒105-8302 東京都港区芝浦一丁目1番1号
TEL (03) 3798-3180 FAX (03) 3798-3841

<http://ceh.cosmo-oil.co.jp/>



IRモバイルサイト

モバイルサイトへは、
このQRコードからアクセスできます。

**UD
FONT**



表紙写真について

コスモ石油販売(株)セルフ&カーケアステーション竜ヶ丘で、コスモスマートビークルをご契約されたお客様とSSスタッフとの記念撮影。
詳細はコスモ石油マーケティング(株)のHPをご覧ください。